

とよはる ちめい  
豊春の地名

豊春地区では、花積台地に貝塚が発見されて縄文時代の古い遺跡が発掘されていることは、全国的に有名である。

考古時代については今後発表される「春日部市史※」第一巻考古資料編によらなければ詳細は判明しないが、この遺跡からは当時の貝類や人骨とイルカの頭骨や縄文土器・石器等と住居跡が発掘されていて考古学上、非常に重要な地域となっている。太古は海岸であったことが想定される。この地域は古代の御名代部みなしろべ「春日部」と深い関連のある区域と推定される。

中世になっての荘園時代は、谷原新田やわらしんでんと増富は太田庄または新方庄に属し、新方袋は太田庄百間領まいとに、増戸・上蛭田・道順川戸・道口蛭田・花積・中曽根・上・下大增新田は太田庄岩槻領いいがたふくろに、下蛭田は騎西庄岩槻領かみひるだに属していた。

近世になってから道口蛭田村は慈恩寺から分離して一村となり、また谷原新田・上大增新田・下大增新田は開発された地域であって徳川幕府になって所領がつぎのようになった。幕府直轄（いわゆる天領区域）は道順川戸・中曽根・道口蛭田の各村。岩槻藩領には、谷原新田・新方袋・上大增新田・下大增新田・増戸・増富・上蛭田・下蛭田花積の各村。

近代になって明治二十二年、町村制の施行によって前期の十二ヶ村が合併して豊春村となり各村は大字となった。村の名称については、「年々耕作の豊かに熟して春和の候の如く合併各村和熟せんことを望むに在り」という意味で豊春村と命名されたとある。

昭和二十九年七月合併により春日部市となり豊春の名は地区名として利用されるようになった。

この地域では中世から近代まで農民の生活共同体としてつぎの村落名が使用されていた。

▽上蛭田村：宮ノ前・新屋鋪やしき   ▽下蛭田村：上手・下手・新屋鋪新田   ▽道口蛭田村：丸山・島

▽花積村：内谷うちや・西浦・島ノ前・反町・弥宜内ねぎ・北ノ下・台みぞ・構   ▽袋村：さる地やなぎくち・柳口・ごみなし・浜川戸

▽中曾根村：川面・松ノ木・新縄   ▽増戸村：上・中・下   ▽増富村：かね塚・中屋鋪・木ノ下

▽谷原新田：三郎谷さぶらうや・大塚・ほもれ・六丁場にじゅうしちよう・廿四町いちまちわり・壱町割・中組・下組

道順川戸村と上・下大增新田には大きな集落がなかったので使用されていない。

埼玉県地名誌（葦塚一三郎著）には、蛭田とは旱田かんでんあるいは涸田であろう旱田ないしは日照田で水利の悪い土地であったところからこのようにいわれたと解している。

花積とは「新編武蔵風土記稿」に「土人の語に村名は古へ慈恩寺の観音へ此地より多く花を積て供へし故起れり」と記しているが、花とは台地「塙」の類語で積とは棲ではなかろうか台地の住居の意と解するとある。

袋は川の袋地にあたることから起った名であろうと解している谷原新田については五十二年七月の歴史余話二郎谷稲荷によって参照されたい。地名の解説については今後なお研究する必要がある。

初出「広報かすかべ 昭和五十四年三月」かすかべの歴史余話

※1 昭和六十三年に発行。